

プシケおおたニュース

2025年 1月号 NO.48

社会福祉法人 プシケおおた事務局
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 4-4-1
TEL : 03-5700-6352
FAX : 03-5700-6753
E-mail psyche-ota@mbj.nifty.com
HP <http://www.koujiya-center.com/>

◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」

～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、
当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します～

◆運営方針◆ 職員行動指針；

- ① 当事者中心
- ② 自己決定
- ③ 権利擁護
- ④ 啓発
- ⑤ 協働
- ⑥ 創造
- ⑦ 研鑽
- ⑧ Win-Win



ご挨拶

プシケおおた理事長 廣瀬 達志

明けましておめでとうございます。

21世紀もいよいよ四半世紀を迎えました。しかし環境、経済、政治などの社会情勢は課題を抱えながら、人類は出口の見えない未来に向かって進んでいます。

とりわけ日本においては少子高齢化社会と共に格差社会の拡大、人口減少や労働力不足、経済の低迷などの諸課題が大きな課題となっています。

日本の福祉の分野にも、これらの課題が大きく影響しています。人口の変化が介護保険財政に影響し、福祉予算の拡大につながり、福祉分野の賃金が一般企業の賃金に追いつかず格差が生じ、働き手の不足が進行しています。

国はここ数年間、処遇改善手当と言う名目で福祉分野の賃金を補助していますが、国策としての長期的展望がないまま、今後も続く福祉分野の極端な労働力不足の勢いに追いつけない現状です。

現在、福祉全般がこれら財政や労働等の課題が厳しい中、並行して福祉サービスの拡充もなかなか前進しないばかりか、一部後退も見られます。中でもとりわけ、精神障害の分野では、個々の支援の複雑さもあり、また医療と福祉の両局面で前世期の遺物ともいえる課題を抱えたまま改善が見られない状況もあります。例えば俗に「にも包括」と呼ばれる精神障害支援体制構築の困難性です。これは、あらゆる福祉支援を地域社会の中で連携させて包括的に（一元的に）進めようと言う未来像です。現状、身体障害や知的障害等は先行して地域包括に組み込む目途をたてていますが、精神障害を地域で包括する目途はたっていません。そこで「精神障害にも包括を」という目標があります。精神障害の個別性や複雑性がなかなか一元化しづらく包括化するのに困難性があるという事だと思いますが、「にも包括」と呼ばれる目標は、今後その制度化を進めることとなっています。

さて、このような状況の中、昨年12月にNHKはドキュメンタリー「死亡退院・精神医療：闇の記録」（連続3作目）を放映しました。2022年4月の滝山病院（八王子市）の看護師による入院患者虐待をきっかけに、社会的にも大きな問題になりました（2023年2月警察介入、看護師等5人逮捕）。滝山病院は精神病院でありつつ、身体の病気の合併症対応ができると標榜していたため、精神単科の病院などから多くの患者が転院し、そのまま死亡退院に至るといった患者が大量に生まれました。この中の調査で、患者を放置し症状悪化を放置したり、朝倉院長の不可解な医療行為によると思われる問題も出ています。

2023年5月東京都が入院患者の退院転院支援を進めましたが受け入れ先が決まらないまま、その後40人の死亡退院を出し、2024年8月に朝倉院長は辞任し、別法人が病院経営を引き継ぎ新しい病院として再出発することとなりました。

この間2023年9月にはプシケおおたの実行委員会もパネラーを招いて学習会を開催してきました。精神病を隔離前提で入院させてきた国の方針こそが、現在の日本の精神障害支援を困難にしている遠因です。これは他の先進国とは違う考え方で、人権問題であり、国連からも指摘されています。

プシケおおたも現在可能な限り「地域移行」（退院支援）を進める対応で仕事を進めています。まだまだ課題は山積みですが皆様のご理解とご協力を、お願い致します。

こうじや生活支援センター

センターでは利用者さんを中心にどなたでも参加いただける地域交流行事を行っています。

今後も様々な形で地域の方々と交流し、誰もが相談ができる、地域に根差したセンターを目指して活動していきます。

こうじやセンターまつり

8月にはこうじやセンターまつりを開催しました。当日は「福祉のまち糶谷夏のおまつり」として町内の他施設も同日にお祭りをしており、スタンプラリーなども併せて盛り上がりました。

当日は、町内会の皆さまに多数ご参加いただいた打ち水から始まり、当事者発表やプラバン・レジンアクセサリー作りなどを行いました。地域の方を含め 297 名の方にご来場いただきました。



ハロウィン

10月には、ハロウィンイベントで地域のお子さん・親御さんあわせて 19 名が参加され、マジックハンドによるお菓子つかみやプラバン体験、トーンチャイム体験を楽しみました。



センターでは、利用者さんが中心となって様々なプログラムを行っています。

定期的に行うプログラムの他にも、クリスマス会など時節に合わせたプログラムも行っています。

ランチ会・お菓子作り

今年度より食事に関するプログラムを再開しました。ランチ会では参加者の皆で作る料理を決めています。お菓子作りも皆で協力しながら調理をし、その後にお茶会をしています。



白玉だんごのフルーツ添え

クリスマス会

クリスマス会では、事前に皆で準備したお菓子やケーキを食べ、ビンゴ大会やミニゲーム、トーンチャイムや合唱などを楽しみました。

参加した皆さんで、

「以前のように、飲食ができて楽しかった」

「準備から、皆で楽しめてよかった。またイベントある時はみんなで協力してできるといいと思う」

など、感想を共有しました。



2025 年の始まりを祈願してきました。きっと良い一年になります。

初詣
新年は北糶谷にある子安八幡神社に、初詣に行きました。